

12/20 13:20

(公用不可)

取扱注意

情報共有 (ニホンガガラスセキ)

暫定版

NISA会議 ← プラン対応チーク

プラント状況（本店レク）議事メモ

日時：平成 23 年 12 月 20 日（火）11:00～11:25

場所：東京電力本館 3 階大會議室

先方：記者約 10 名（カメラ 3 台）

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- 福島第一原子力発電所 2 号機 使用済燃料プール冷却システム 差流量大警報発生の調査について

[REDACTED] よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. 2号機使用済燃料プール冷却システムの差流量大警報発生の調査について、フロー エレメントが設置されている場所はどこか。また、どのような構造なのか。

A. フロー エレメントは全部で 2 箇所あり、2号機廃棄物処理建屋 1 階に設置されている。1 次系にある循環ポンプの出入口に取り付けられており、入口側と出口側の流量の違いを検出するシステムである。フロー エレメント内にはオリフィスという穴の空いた円盤が入っており、その中を流れる前後の圧力差を実際の流量に換算している。

Q. フロー エレメントについては、2 箇所とも調査を実施するのか。

A. 今回、2 箇所とも切断を行って調査を行う。

Q. 差流量大の警報が発生するとポンプが自動停止するのか。

A. その通り。1 次系で配管破損などにより水が漏れた場合、ポンプの入口流量と出口流量に差ができるから、それを検知してポンプを自動停止し、水の流出を止める。

Q. フロー エレメント内に異物が詰まっている可能性が高いと言うことか。

A. 今回、異物が詰まった形跡があるのか、もしくは詰まりやすい構造になっているのかは確認させていただく。また、計装配管もあわせて切り出し、そちら側に詰まりやすくなっているのかも確認する。

Q. 施設運営計画に示されていた原子炉注水ラインの安定性向上に関する進捗状況を教えていただきたい。

A. 施設運営計画から遅れているとの話はないが進捗状況は確認させていただく。

Q. 原子力安全・保安院から H P C I の操作等について調査報告の指示が出ているが、進捗状況を教えていただきたい。

A. 12 月 22 日までに報告するよう指示を受けているので、現在、調査をとりまとめているところ。

暫定版

Q. 聞き取り状況について確認できていることを教えていただきたい。

A. 運転員への聞き取りは終わっているが、最終的にまとめた段階で公表させていただく。

Q. キュリオンについては1月11日まで、サリーは12月27日まで停止するということは、高濃度の水処理は動いていないと言うことですか。

A. その通り。雑固体廃棄物処理建屋、プロセス主建屋の水位も下がっているので、水処理のバランス等を見ながら調整してまいりたい。

Q. これまでキュリオンとサリーの両方を停止したことはあるか。

A. 無いと思うが確認させていただく。停止していた場合、その期間も含めて確認させていただく。

Q. 年末だから作業を停止するものではなく、あくまで水処理量の調整という観点か。

A. その通り。このまま処理を続けるとプロセス主建屋側の水位が下がりすぎてしまうもあり、停止する。

Q. キュリオンとサリーを長期停止にすることに伴う設備メンテナンスの問題などはあるのか。

A. アレバの除染装置は長期停止によるスラッジの固着防止のために月に1回の循環運転をしている。キュリオンとサリーについても同様のメンテナンスなどがないかは確認させていただく。

Q. 平成21年6月に土木学会へ波源モデルの策定について4点依頼したことだが、依頼した文書を公表していただけないか。

A. 社内文書なので公表は考えていない。

Q. 依頼文書の内容について諸説出している状況でもあるので、明確にするためにも公表していただけないか。

A. 社内資料なので公表は差し控えさせていただく。

依頼した内容については先ほど申し上げたとおり「日本周辺および外国沿岸の決定論に用いる波源モデルの構築」「数値計算手法の高度化」「不確かさの考慮方法の検討」「津波に伴う波力や砂移動の評価手法の構築」等を目的として、幅広い分野について審議いただくことを記載している。

また、貞觀津波の波源モデルについては津波評価部会において審議が行われ、委員への説明もされている。

Q. 依頼した文書の中には評価してもらい波源モデルについて、具体的にどのような記述がされているのか。

A. 当該文書にどのように記述されているかの公開は控えさせていただく。

以上

12/20 22:25

公開不可

取扱注意

暫定版

情報共有
(2枚)

非管理メモ

プラント状況(本店会見)議事メモ

ルーム内←プレス対応

日時：平成23年12月20日(火) 18:00～18:30

場所：東京電力本館3階大会議室

先方：記者15名(カメラ3台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- 福島第一原子力発電所の状況
- 福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について(第二百七十報)
- 福島第一原子力発電所付近における海水中の放射性物質の核種分析の結果について(第二百六十三報)
- 福島第一原子力発電所取水口付近で採取した海水中に含まれる放射性物質の核種分析の結果について(12月19日採取分)
- 茨城県沖における海水中の放射性物質の核種分析の結果について(続報41)
- 福島第一原子力発電所タービン建屋付近のサブ度連からの放射性物質の検出について(12月19日採取分)
- 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果(12月20日)

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. 放射性物質の総放出量評価を年内に公表するということだが、現時点での見通しは。

A. 年内の公表を目標に評価しているところ。過大評価・過小評価にならないように解析の結果と測定された結果を照合している。

Q. 施設運営計画その3に記載されていたサブドレンの復旧やタンクの増設計画の進捗状況は。

A. 来春には処理水や濃縮塩水の量がタンク容量を上回るので、約4万トンのタンク増設計画を進めている。設計が固まり次第お伝えする。サブドレン水は汲み上げるにあたって未だにセシウムが検出されている場所もあり、現在除去方法を検討しているところ。

Q. 4万トンのタンク増設というのは、現在設置されている14万トン分の濃縮塩水受けタンクをさらに増やすということか。

A. その通り。ただし、今後の水処理設備の運用状況により、処理水側に運用するのか濃縮塩水側で運用するのかについては未定。

Q. 明日公表予定の「福島第一原子力発電所における高濃度の放射性物質を含むたま

り水の貯蔵及び処理の状況について」では4万トンを上乗せした形で公表されるのか。

A. 計画が固まつていれば、上乗せした形で公表する。

Q. 今の設備とは別の設備を新設するのか。

A. 2種類あり、まず「施設運営計画(その3)」で報告した通り、サブドレン水をくみ上げることで建屋の中に余剰水が入らないようにするという対策があるが、当該サブドレン水には微量ながら放射性物質が検出されているため除去する必要がある。また、処理水についてはセシウムは取り除かれているが、ベータ核種が取り除かれていないため、告示濃度以下に下げるための設備設置などを計画している。

Q. サリー、キュリオンを同時に止める理由を改めて教えてほしい。

A. 2・3号機の滞留水の移送を停止していることから、集中ラドへの新たな水の供給がない状況であり、集中ラド側の水位が下がりすぎることによる地下水の流入を懸念している。また、水位が下がり、プロセス主建屋の内面が乾いた状態になるとダストが舞っている。さらに、炉注に必要な処理後水が十分溜まっていることが上がることも懸念している。さらに、炉注に必要な処理後水が十分溜まっていることから、急いで汚染水処理をする必要がないことも理由の1つ。

Q. 冬場になってサブドレンの水位が下がってきてているのでは無いか。

A. 19日の2号機のサブドレン水位は約4,800mm、3号機のサブドレン水位は約3,700mmであり、地下水の水位の方が高い。

Q. 季節により変化がある場合にO.P.3,000mmで管理していく大丈夫か。

A. サブドレンの水位が滞留水の水位を下回らないようにコントロールしたいと考えている。

Q. トレンチにたまり水が見つかったことに伴い、本日、類似箇所の点検を行っている

かと思うが、新たたたまり水は見つかったのか。

A. 現状、現場から報告はあがってきていない。いずれにしても点検結果はきちんとご説明させていただきたい。

■より福島第一原子力発電所1～4号機の中長期ロードマップを明日(12月21日)17時から説明することを発表。

以上